



東北復興応援サミット

基金総額 81 万円を 3ヶ所に贈呈

皆さまからお寄せいただいた募金は、総額で81万円でした。それを3等分して「薄磯地区 副区長鈴木様」「いわき自立支援センター 長谷川様」「チャイルドライン 事務局長小笠原様」に27万円ずつ渡しました。薄磯地区では福島民友と福島民報の取材を受けて、新聞にも掲載をしていただきました。



3/12
薄磯

薄磯地区で民宿・鈴亀を営む鈴木さん。津波の後にいちはやく民宿を再開して地区の復興に頑張っています。震災とその後のお話を伺いました。

ぜんしきょうが寄付
いわき薄磯地区に27万円
全国育児介護福祉協議会
(ぜんしきょう)は12日、
いわき市の薄磯地区を訪
問、浄財27万円を区に寄付
した。

いわき市でも7m以上の津波で大きな被害を受けた薄磯地区。3年経っても基礎が残り、復興住宅もこれからです。まだこの地区の住民はほとんどがまだ戻れません。鈴木さんが話を聞いてくれるだけでも嬉しいとお話していました。津波は泥が多く紙一重で生死の分かれがあったそうです。



鈴木副区長（前列右から2人目）に浄財を手渡した若井専務（同3人目）ら



た。贈呈式は豊岡中近手渡した。くで行われ、若井専務が鈴木副区長、薄磯地区副区長（民宿鈴亀）にも同額を寄付した。



3/12
小名浜

NPO 法人「いわき自立生活センター」は被災地の障害者や介護事業を行なっている団体です。理事の長谷川さんに震災時の弱者である高齢者や障害者の方々のお話をいただきました。復興応援の気持ちで集めた27万円をサミット参加者の前でお渡ししました。



18歳以下の子もたちの無料電話相談を行なっている「チャイルドラインこおりやま」、その事務局長が29歳の東京から福島を気に入って復興援助に頑張る小笠原隼人氏。震災直後より1年、そして2年が経って増えている相談電話。子どもたちの抱える悩みを聞くことで自立への足がかりにしています。質疑応答も含めて真摯な若い力との交流後に寄付を贈呈しました。全国のチャイルドラインは下記アドレスで。

<http://www.childline.or.jp/childline/>

3/14
郡山



公的介護保険では出来ない身近なサービスを提供するために企業した幸齢社会プロジェクトの水野さん(左)と小笠原さん(左2人目)との交流は元気を貰いました。

発行所 福島市柳町4-29
郵便番号 960-8648
福島民友新聞社
電話代表 (024) 523-1191
編集局 (024) 523-1390
販売局 (024) 523-1472
振替口座 02180-8-5070
©福島民友新聞社 2014

福島民友

THE FUKUSHIMA MINYU

第39412号 (日刊)
2014年 (平成26年)
3月16日 (日曜日)

ぜんしきょうが寄付
いわき薄磯地区に27万円
全国育児介護福祉協議会
(ぜんしきょう) は12日、
いわき市の薄磯地区を訪
問、浄財27万円を区に寄付
した。



鈴木副区長 (前列右から2人目) に浄財を
手渡した若井専務 (同3人目) ら

鈴木幸長副区長が同会の
メンバーに海沿いを案内
し、東日本大震災による津
波の被害と同区の現状を説
明。同会の若井録也専務が
鈴木副区長に、半年間かけ

て会員が集めた浄財を手渡
した。鈴木副区長は「支援
をうれしく思う。浄財は区
の復興のために役立てる」
と誓った。
同会は同日、同市のいわ
き自立センターにも27万円
を寄付した。

薄磯住民に27万円寄付

全国育児介護福祉協 自立生活センターにも



鈴木副区長 (前列左から3人目) に寄
付金を手渡した若井専務 (同2人目)

全国育児介護福祉
協議会 (ぜんしきよ
う) は十二日、いわ
き市平薄磯の住民に
被災地見学ツアーの
途中で寄付を実施し
た。

二十七万円を寄付し

た。贈呈式は豊間中近
くで行われ、若井録也
専務が鈴木幸長薄磯区
副区長 (民宿鈴亀) に
手渡した。
同日、NPO法人い
わき自立生活センター
にも同額を寄付した。

005号 (日刊)

福島民報

2014 (平成26) 年
3月14日
金曜日

発行所
福島民報社
福島市大町13-27
電話代表 (024) 523-1191
編集局 (024) 523-1390
販売局 (024) 523-1472
振替口座 02180-8-5070
電話120-373437